



▲町内には多くの社会教育施設があり、その管理を行っているのも現在は社会教育課です

置づけが変わってきているのかご説明いただければ伺いたいです。

教育長 実は私は長い間、鈴鹿市で教員を務め、鈴鹿市教育委員会の社会教育課でも勤務し、子ども会やPTAなどを担当していました。鈴鹿市では平成20年の法施行によって地域の活性化を目指して社会教育課が教育委員会から市長部局の生涯学習課、スポーツ課、文化財保護課へ移管しました。現在、県下では県と8つの市で社会教育が首長部局に移管されており、周囲の方の話では首長部局に移管しても特に問題はなかったと聞いています。地域振興のためには良い転換だと感じています。

町長 もともとは社会教育を教育委員会が担当し、その法律の制度が変わったのは知っていました。さまざまな立場で経験された教育長に、どうしてそのように変わってきたのか沿革や動機をお聞きしたかったです。



SHIBATA TAKAYUKI

育のもつ観光の側面を直接繋げた方がやりやすいと考えました。今回の組織改編では、菟野町をどうしていきたいかという私の想いを高めるために社会教育の分野をマネジメントさせてもらう。これにより観光と社会教育が結びつきやすくなるということを思いついてしまったのです。

進行役 混ざりあって化学反応が起こるようなシナジー効果を狙ってですね。コミュニティ振興課の具体的な役割も教えてもらえますか。

町長 コミュニティ振興課の中に社会教育課を取り込んでいきます。コミュニティ振興は、住民がつくり上げていくものであり、社会教育は観光と繋ぐだけではなく、住民とも繋いでいくこととなります。社会教育は当然、菟野町の皆さんのためのものであり、皆さんが楽しんでもらう。体を鍛えてもらって、教養を付けてもらわなければ意味がありません。そして、皆さんの声もなるべく取り込みたい。ごく一部の方のこだわりではなく、まちの皆さんの考え方をそのまま答えるべきだと思っています。まちの方々の声を直接受け止めるコミュニティ振興課

巻頭 菟野町が目指す先 町長 Cross Talk 教育長

教育長 私の想像も含まれますが、社会教育は学校との繋がりや連絡という観点では教育委員会所管である方が利点が多いです。しかし、生涯学習の場合は子どもだけでなく大人も対象となり、町長部局の方が連携や運営がスムーズにできる点が多いことが理由ではないでしょうか。

町長 菟野町も教育委員会では学校の先生の力を指導主事という形で補ってもらい、それ以外の職員は町の職員を教育委員会に派遣しているような状況です。もともと事務処理の面は町職員の方が向いていて、教えて育てる面では教育委員会の先生にお任せするしかない。役割分担が最初からあるように感じています。

進行役 専門化する部分がありつつ、他部署との連携を深めるための変遷があったということですかね。

菟野町の強みの部分を伸ばす

進行役 春には町の組織に改編があるということをお聞きしました。コミュニティ振興課の新設について教えてください。

町長 これまでも教育委員会では専門性を尊重しなければならぬ部分があり、私の経験上でも専門的なことを知らない方が口出しすると良くない結果になることがあります。

が社会教育を担うことで、私はみんなのための社会教育ができると思えました。これがコミュニティ振興課を設けた趣旨であり目的です。

わかりやすさと効率化を図る

進行役 水道課と下水道課が統合し、上下水道課が新設されるとお聞きしました。

町長 菟野町はほとんど水道事業が完成しており、あとはどのように維持していくかが課題です。下水道は古くなり管が割れたりして住民の皆さんにご不便をおかけしたことがあります。そのような場合に水道課の職員だけでなく、下水道課の職員も応援にいけるようになれば早く対応ができるようになる。また、菟野町では水道料金も下水道使用料も一度に請求させていただいているため、まとめた方がわかりやすい。統合した方が町民に利益を還元でき、職員の負担も軽減できるシナジー効果がここにもあります。

進行役 来年度の菟野町は組織が活性化されてアクティブになる感じが

観光を盛り上げていくことで
その他の産業も盛り上がっていく

た。そのような意味では、特に校長先生の皆さんには専門的な部分で敬意をもって接していますが一方で、形式的な事務処理は町長部局で行った方が先生の皆さんがさらに仕事に集中してもらえないのではないかと感じていました。そして、ここで大きく申し上げたいのは菟野町は「観光」で身をたてたいという点です。農業も工業も商業もどれも大切ですが、やはり観光を盛り上げていくことでその他の産業も盛り上がっていく。強みの分野を伸ばすことがこれからの菟野町を発展させていくことに適している。これまでも思っていましたし、今後その方向でしっかりとやっていきたいと思っています。

進行役 菟野町としては強みを生かす、先生としても強みを生かし専門性を高めていくという感じですね。

町長 社会教育は一人ひとりが自分の教養を身につける、身体が健康になるという面だけではなく、かな

しますね。最後に新年度の抱負を教えてください。

教育長 平成27年4月から教育委員会の制度が変わって首長が総合教育会議を開催できる権限が与えられました。この制度の中でも教育委員会の政治的な中立性、継続性、安定性は守られていくべきであり、柴田町長は本当に教育委員会を尊重してもらっています。その点でも以前と比べると町長部局との連携は強くなつており、これからは社会教育の事務や管理はしてもらいながら、これまでどおりの連携を進めていきたいと思っています。何より組織を変えることで町民や各社会教育関係団体の方が、より良くなったと感じてもらえることが大事です。ですからね。

住みながらにしてワーケーション
そんな最先端のまちを作りたい

町長 教育は専門家に任しておけばいいという考え方はなく、コミュニ

▼かもしかハーフマラソンは次回で開催15回を迎える



り観光の側面があると思うんです。例えば、今年は絶対に開催したいと思っている鈴鹿山麓かもしかハーフマラソンも実際は町民が走っているだけでなく、全国から多くの方がお越しただいて、この大会をきっかけにして菟野町を知っていただいたり、泊まってもらったりしています。これは体を鍛えるスポーツの側面に加えて、菟野町を宣伝し観光を盛り上げていくという側面も備わっているということ。町長部局には観光に関する部署もあるので、社会教

ティスクールの概念があるようにみんなで作っていく必要があると考えます。そして、これから新しい体制を作っていくにあたっては、とにかく観光に力をいれ、そこに社会教育を結びつけていきます。なるべく早く、町の内外の方に喜んでもらえるような観光施策を打ち出していきたい。どこに住んでも住みよいため、菟野町はその場にいるだけで住みながらにしてワーケーションができるような最先端のまちを作りたい。このような方向性に関してもご意見をいただきながら進めていきたいと思っています。

進行役 今までの菟野町、これからの菟野町の行方をお二人にお聞きしました。ありがとうございます。二人 ありがとうございます。

MEMO 菟野町チャンネル開設

菟野町の公式 YouTube チャンネルを開設しました。今回の対談の様子も動画でご覧いただけます。

